

珠洲だより 【最終号】

2026.03.26



JASWHS 公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

目次

■ 巻頭言 珠洲市支援統括責任者 笹岡真弓	4
■ 2年間の感謝を込めて 珠洲市支援現地責任者 福井康江	5
■ 日本医療ソーシャルワーカー協会 会長 早坂由美子	6
■ 石川県医療ソーシャルワーカー協会 会長 中本富美	
■ 副会長 野田智子	7
■ 社会貢献事業部長 今尾顕太郎	8
■ 災害支援チーム 平野裕司	9
■ 珠洲市支援活動—2024年3月22日～2025年9月2日まで (珠洲だより第1号発行9月3日まで)	10
■ 編集後記 事務局員 井川亜里沙	17

巻頭言

珠洲市支援統括責任者

笹岡 眞弓

あれから 2 年いや 3 年、天災が能登半島を襲って以来被災された多くの方々が、生活再建の道を歩むことになりました。医療ソーシャルワーカーの職能集団が石巻支援をひとまず修了し、珠洲市に参ったのは 2024 年の 3 月の下旬からでした。福井康江氏を現地責任者として、当地に在住し全国から 194 名、延べ人数 453 名が活動致しました。

他人にできることは悲しいほどに少ない、ことを承知しながらソーシャルワーカーの職業的使命に基づいて活動をしてきたと自負しております。もちろん至らないことは多数あったと思います。珠洲市の皆様の温かい受け入れ態勢のお陰をもちまして、今までやってまいりました。4 月からは石川県のソーシャルワーカーの職能集団が引き続き活動を続けます。

当協会も、引き続きできる範囲で活動を継続したいと思えます。

珠洲市の天災はむごいものでした。加えて世界の惨状も目を覆うほどの状況が続いています。私たちの心をそれでも前に向かわせるものを信じたいと思えます。

先日読んだ本の中に「私たちが夜明けに向かって歩き続けられるのは犠牲者を心底から悼みつつ沈着な判断と真摯な思いの深さを抱き続けてこそ、だ。他人を思いやる心、他人の痛みを分かち合う優しさ。そうした心を培う想像力……。そしてささやかでもひとのために自分でできることを実行するといった行動力があってこそ、その先に光が見えるのだろう。」という文章がありました。行動力を支えにこれからも努力を続けます。

<大石芳野 ((2022)『私の心のレンズ』インターナショナル文庫、p10)>

2年間の感謝を込めて

珠洲市支援現地責任者 福井 康江

2024年の2月8日、初めて珠洲市を訪れた。高岡から向かう道は緊急車両や工事関係の車で渋滞となりっており、奥能登へ入ると傾いた家屋や屋根ごと崩壊した建物に、被害の大きさを感じ徐々に緊張感を抱えた。市役所に到着すると、駐車場は緊急車両などで満車の状態で被災地の張り詰めた空気が流れていた。お会いした市役所の方々は、疲労を抱えながらも丁寧に迎えていただいた。そして、「(市外へ避難した)市民の方に早く珠洲に帰ってきてほしい。最期まで故郷で暮らして欲しい。」との話を伺い、ここ珠洲にこれから来るための背中を押された気がした。

3月31日、生活用具を車一杯に詰めて、再び珠洲に到着。この日から珠洲での生活が始まった。

初めての土地に1人で滞在し、支援活動をすることに不安はあったものの、不思議と早く馴染めたのは、何よりも周りの方々が真っすぐに受け入れてくれたからである。“能登は優しや土までも”の言葉通り、何者かわからない私と自然な形で一緒に活動をしてくれたり、住民の方からは能登の事、珠洲の事、避難生活の事など、色々と教えていただいた。

また、被災しながら支援活動や業務を続けることは、私の知らない苦労も、大変なことも沢山あったことだろう。そうした方々に、どれだけ役に立てたのだろうか。その応えがまだ出せないことが申し訳なく思う。

昨年秋の大谷小中学校の運動会のスローガンは「少数最強」であった。このスローガンから、少数でも成し遂げる勇気や未来を感じる。これからの復興に向けての手旗となるような気がしている。

この2年間の間、出会った皆様、支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。



日本医療ソーシャルワーカー協会 会長 早坂 由美子

日本医療ソーシャルワーカー協会が、この2年間、皆様のご協力を得ながら災害支援に関わらせていただいたこと、心より感謝申し上げます。

長年、石巻市での支援をしてきた当協会の福井康江理事が地域の方々とともに、被災者の方々の生活再建を支援する姿は多くの当協会の会員の心に響いたと思います。被災者の方々は多くの悲しみ、淋しさを抱えていらっしゃると思いますが、人の温かさと素晴らしい自然のある珠洲の地を大切に、穏やかな日々を送ることができるよう心から祈っております。

石川県医療ソーシャルワーカー協会 会長 中本 富美

被災された方にソーシャルワーカーとして何ができるのかと葛藤する中、日本医療ソーシャルワーカー協会野口会長（当時）より1.5次避難所及び珠洲市現地派遣の提案いただきました。その申し出により私たちは被災された方や被災地にソーシャルワーク支援が届いているという安心感を得ることができました。

会員一人ひとりが自施設で被災者の方への支援を行い、また福井さんとともに現地での訪問調査等参加の経験がこれからの協会の支援活動の道標となりました。深謝申し上げます。

副会長 野田 智子

初めて珠洲市を訪問したのは、2024年の12月でした。金沢で開催された能登サロンに参加し、そのまま福井さんと共に半島を自動車で移動し、珠洲市に入りました。協会の車に乗り換え、ひとりで宿泊先のビーチホテルに向かうと、地震の爪痕がたくさん残っており、衝撃を受けました。翌朝、車でささえ愛センターに向かうときも、前日は夜だったので見えなかった景色を目にし、昨日被害にあったかのような被害状況にも身の引き締まる思いを抱いたことを鮮明に思い出します。昼食を購入するためにコンビニに立ち寄りしましたが、工事業者の方々と思われる方々のレジを待つ長蛇の列をならび、現地によく入りました。

ささえ愛センターの皆様や精神保健福祉士協会の方と一緒に、業務に参加しましたが、初めての被災者の方々の自宅や仮設住宅への訪問では、福井さんはじめ皆さんの活動の様子をみながら、被災者の方々と対話、記録などの活動をさせていただきました。当時は、地震から1年を迎えようとする年末が近づいており、1年前を思い返す方々の気持ちがよく伝わってきました。1年たった今、生活が今後どのようになっていくのかの不安も感じました。珠洲市役所、健康増進センターの皆様の活動もお話を拓段聞かせていただきました。現地で思うように役に立つには、日数が必要だと感じました。同時に信頼関係をつくっていく時間や関係性が、大事な根幹になるとも思いました。日常の現場での業務とは異なる多くのことを感じ、学ばせていただき感謝しております。

石川県医療ソーシャルワーカー協会の皆様が、日常の仕事をもちながら、珠洲市の支援活動に複数回はいてくださっている状況に、敬意を表するとともに心より感謝しております。同県内のこととはいえ、強い思いがなければできないことではありません。離れているからこそできる支援を考え、現地に心を寄せることの意味を考えさせられながら、協会組織としてのあり方を未来に向けてつなげていきたいと思えます。

珠洲市の関係者の皆様、2年間私たちを受け入れていただき、ありがとうございました。そして、今後も石川県協会の皆様とともに、新たな支援の形を模索していきます。

社会貢献事業部 業務執行理事 今尾 顕太郎

石川県珠洲市における2年間の活動を振り返ると、まず心に浮かぶのは、現地で出会った皆さまの笑顔と、かけていただいた言葉の数々です。担当理事としてこの活動に関わる中で、最後にいちばん強く残っているのは、「支援に伺った」という思い以上に、珠洲市の皆さまに受け入れていただき、支えていただいたという感謝の気持ちです。

行政や社会福祉協議会、関係機関の皆さま、そして地域で暮らす方々との出会いと対話の一つひとつが、私たちにとって大きな学びであり、励ましもありました。困難な状況の中にあっても、前を向き、互いを思いやる皆さまの姿から、私たちは多くのことを教えていただきました。

この2年間でいただいたご縁は、私たちにとってかけがえのない財産です。心からの感謝を込めて、この経験をこれからの実践へと大切につないでいきたいと思えます。



災害支援チーム（桃山学院大学） 平野 裕司

当協会は珠洲市に入って2年が経過しました。本事業の事務局として従事させていただいた2年間で振り返りますと、外部支援者としてできることは限りなく少なく、至らない点が多々あったと感じております。まずはその点についてお詫び申し上げますとともに、珠洲市の皆様の温かい受け入れのおかげで今日まで活動を続けることができましたことに、心より感謝申し上げます。そして、珠洲の皆様とのご縁が今回で途切れることなく、今後もつながり続けていくことを願っております。

また、紙面の許す範囲ではございますが、珠洲市および石巻市での活動と、今日の社会状況を踏まえ、若干の所見を述べさせていただきます。

2025年に災害救助法および災害対策基本法が改正されました。これにより、福祉支援は避難所内にとどまらず、在宅や地域生活の場においても展開されることが明確化され、被災者の生活再建を支えるうえで福祉の役割が一層重要であることが改めて認識されたものと考えられます。

一方で、福祉分野が抱える課題として、“人材不足”は依然として深刻です。災害が頻発する現代社会においては、「災害が発生していない時」と「災害が発生した時」とを二分して捉えるのではなく、平時の支援と災害時の支援の双方を担うことを前提とした考え方への転換が求められているのかもしれません。

近年の福祉領域における災害派遣の状況を見ると、人材不足による日常業務の多忙に加え、派遣者の身分保障や活動を支える制度的スキームの未整備といった課題もあり、災害支援への参画を見合わせるという判断も現実的には十分にあり得ます。それは決して誤った判断ではなく、現場の実情に即したものであると考えられます。

しかしながら、私たちが暮らす地域や働く職場が被災した場合を想像してみるとどうでしょうか。当然ながら、支援を求める側になる可能性があります。同時に、支援に入る立場としての自分を思い描くことも必要ではないでしょうか。当協会員の場合、所属機関によってはDMAT等の一員としての活動があらかじめ定められている場合もあると思われます。一方で、そうした枠組みがない場合には、どこへ向かうのか、どのように動くのか、その判断に迷うことも想定されます。

そのような中で、確実に言えることが一つあります。それは、「訓練し、備えること」の重要性です。自戒の念も込めて述べますが、災害支援は「起きてから学ぶ」のでは遅いです。災害が発生する前から学び、備えることこそが、自らの命を守り、そして他者の命を守ることに繋がります。

当協会における災害支援や研修等は、今後も継続して実施される予定です。多くの会員の皆様が関心を寄せ、学びの場に参加されることを期待しております。

珠洲市での支援活動開始から

「珠洲だより第1号」発刊までの活動

—協会ホームページ「お知らせ」「災害支援情報」より—

当協会は、石川県珠洲市で3月6日から活動を開始しました。活動当初は派遣会員の宿泊先もない状態でしたので、添付①②のトレーラーハウス、キャンピングカーをお借りし、トレーラーハウス、キャンピングカーで寝泊まりしながらの活動でした。小原様ご夫妻、KWORKSの黒田社長のご厚意に深く感謝申し上げます。

今年度、当協会は石川県珠洲市より「社会福祉士等相談支援事業」を受託し、珠洲ささえ愛センターの運営に関わっています。

珠洲ささえ愛センターは、能登半島地震により被災された方々の支援として、珠洲市社会福祉協議会職員や看護師等のスタッフが被災された方々の生活再建を目指して、「お困りごと相談」「個別訪問」「関係機関との連携」「復興サロン支援」を行っています。

現地に会員が常駐し、相談支援、生活支援を個人宅、仮設住宅等を訪問し、実施しています。

珠洲市での珠洲ささえ愛センターの運営には、全国の医療ソーシャルワーカーの協力が必要です。派遣登録をお願いします。



全戸訪問調査が始まりました

8月19日（月）より、珠洲市による全戸訪問（約1,800戸対象）が始まり、当協会常駐職員と石川県医療ソーシャルワーカー協会会員も関わっています。全戸訪問により在宅生活の状況を確認し、孤立防止支援や必要に応じて在宅支援サービスの導入支援などを行っています。

石川県能登地方での大雨被害について

現在、石川県金沢市内の1.5次避難所に石川県医療ソーシャルワーカー協会の会員が、珠洲市に当協会職員（石巻支援事業に8年間従事し、本年4月から引き続き珠洲市支援活動に従事している福井康江会員）が派遣され災害支援活動に従事しています。

先週末の石川県能登地方での大雨被害について、珠洲市派遣中の当協会職員の無事は確認しており、同職員は珠洲市内各地を回り、支援している皆様の状況把握を珠洲市の行政職員の方々と一緒に行っている状況です。また、石川県医療ソーシャルワーカー協会とも状況を共有しています。

当協会では、引き続き、各所と連携して支援を進めていきます。

珠洲市における石川県医療ソーシャルワーカー協会と連携した取り組みについて

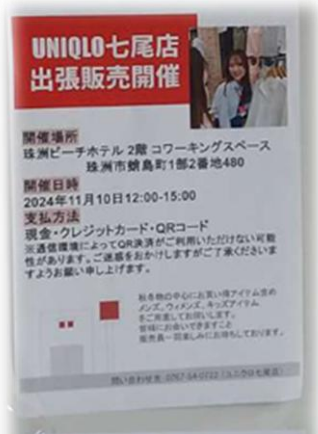
現在、珠洲市では、当協会派遣MSWが石川県医療ソーシャルワーカー協会の会員と共に、訪問調査の一環で自宅生活されている方の訪問を行っており、能登半島地震や奥能登豪雨災害の状況の中で、ご自宅で生活する上での支援について検討を行っています。継続訪問なども行っていきます。

冬服の販売会を開催しました

会員の皆様には協会ニュースでご報告しています夏の UNIQLO 販売会に続いて、11月10日（日）、今度は写真のように珠洲市内のホテルを会場に UNIQLO の冬服の販売会を開催しました。

当日は約 100 名の地域の皆様が来場されました。各地から送られてきた物資からではなく、「自分で選んだ服を着る」その機会を提供することの大切さを知る、当協会現地職員ならではの視点で、誘致から実行まで当協会の企画として行いました。この企画を契機に他の活動にも繋げられる兆しがあります。

多くの関係者のお手伝いもあり、和やかに終わることができました。当協会の依頼を快く受けてくださった UNIQLO にも感謝！！です。



能登サロンに参加しました

2024年12月7日（土）、金沢勤労者プラザにて輪島市、珠洲市、能登町、穴水町、七尾市、志賀町から広域避難をされている方とそのご家族を対象に「能登サロン」が開催されました。主催は石川県、石川県地域支え合いセンター（石川県社会福祉協議会）で、当協会から（珠洲市災害支援派遣）福井康江現地責任者と野田智子理事が参加し、活動の支援をさせていただきました。

当日は約 50 名が参加し、住所地ごとのテーブルに分かれて、地域の住民同士、関係者との交流をすることができました。地元から離れて暮らす被災者はもとより、そのご家族もこの先の生活への不安や生活基盤を失うことで新たな環境への適応に時間を要している様子が垣間見られました。また、相談コーナーも設置され専門家や自治体による個別相談も実施されました。

他県でもこうした被災者の方々の交流の場を企画する際には、MSW として参加協力できる機会があるとよいと考えています。

当協会のオリジナルロゴ入り防寒コートを作成しました

当協会のオリジナルロゴ入り防寒コートを作成しました。現在、珠洲市の支援活動で使用しています。

2025年2月中に何とか間に合い、今シーズン少し活用できます。カラーはネイビー色。新年度予算でも災害活動で着用できる上着等を作成予定です。現地活動でぜひ活用いただく機会があればと思います。



珠洲焼販売で多くの皆様に作品をお買い求めいただきました

東京都豊島区にご協力をいただき実施しました、2月27日（木）～3月1日（土）の第18回としま MONO づくりメッセでの珠洲焼販売では、多くの来場者の皆様に珠洲焼をお買い求めいただき、3日間で169点を販売、予想を超える売り上げがありました。

お父様への贈り物としてぐい飲みやおちょこを買われた方や、ご友人への贈り物として花入れや湯呑を買われた方など、珠洲焼にそれぞれの大切な人への思いを込めてお買い求めいただきました。また、「珠洲に行ったことがあるが、今どうなっているのか。」と言ったお声掛けも沢山いただきました。

こうして、多くの来場者の皆様に珠洲焼をご覧いただきながら、一緒に“珠洲”への関心をお寄せいただきましたことは、珠洲の皆さんへお伝えしたいと思います。また、今回は4名の珠洲焼の陶工の方々の作品をお預かりし販売させていただきましたが、販売金額はすべて4名の陶工の方々へそれぞれお渡しさせていただきました。

短い期間の宣伝活動にもかかわらず、開催当日、会員の方だけでなく、「会員の方から教えてもらい来てみました。」と直接会場にお寄りいただいた方もおられ、大変心強く感じることができました。当協会では、これまでの感謝を重ねながら、今後も珠洲での支援活動を継続して参りますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

「ささえ愛 春祭り」を開催しました

2025年3月24日（月）、珠洲ビーチホテルを会場に「ささえ愛 春祭り」を開催しました。当日はサロンコーナーをはじめ、オリジナルTシャツづくり体験、UNIQLOによる訪問販売、キッチンカーの出店など、多彩な催しが行われました。

イベント開始前から多くの方々が会場を訪れ、最終的には約120人の方々にご参加いただきました。地域の皆様とふれあい、交流を深めることができ、大変にぎやかで温かい一日となりました。

ご来場いただいた皆さま、ご協力いただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。なお、本企画は公益財団法人日本財団（<https://www.nippon-foundation.or.jp/>）の助成を受け実施しております。



2025年 3月24日（月）
12:00～16:00
場所：珠洲ビーチホテル1階
鶴島町1部2番地480

ちょっぴり早い
ささえ愛 春祭り

春のよそおいをここで準備！
UNIQLO（ユニクロ）移動販売会
支払方法：現金・クレジットカード・QRコード
会場企画“オリジナルTシャツ（UT）を作ろう”
先着30名の方無料！

キッチンカーも来るよ

Tシャツにプリントしたいオリジナル画像などがある場合は、データをスマホなどに保存してお持ちください

ゆっくりのんびりしませんか
「ささえ愛サロン」も開催！

主催：（公社）日本医療ソーシャルワーカー協会
連絡先：090-1836-4401（担当：福井）
共催：UNIQLO
本企画は日本財団の助成を受けて実施しています



完成したオリジナルTシャツ

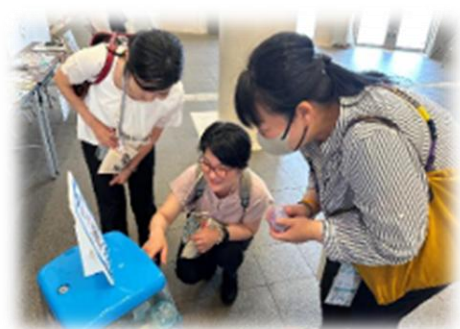


全国大会で珠洲焼販売会を実施しました

2025年6月21日（土）・22日（日）に三重県津市で開催された「第73回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会・第45回日本医療社会事業学会（三重大会）」において、第3回目となる珠洲焼の販売会を実施しました。

当日は珠洲焼に加え、“大谷ガチャ”こと「OHTANI CHARM」の販売も行い、過去に珠洲市や1.5次避難所での支援等に関わった協会員の方々をはじめ、多くの来場者がブースに立ち寄り、購入してくださいました。

この活動を通じて、災害時の支援の必要性や平時からの備えの重要性、そして地域の伝統を守ることの意義について、あらためて考えるきっかけとなりました。



当協会ロゴ入りビブス・ジャンパーを作成しました

— “青” に込めた想い。あなたも仲間になりませんか？ —

能登半島地震からの復旧・復興支援の一環として、日本医療ソーシャルワーカー協会では、石川県珠洲市において医療ソーシャルワーカーによる災害支援活動を展開しています。

この度、現地で活動する支援者の一体感を持ちつつ、地域住民にも安心感を届けるため、新たに支援用のビブスとジャンパーを作成しました。

デザインは、協会カラーの「青」を基調に、さわやかさと信頼を感じさせる仕上がりにです。

この「青」には、

- ・ 支援の現場に駆けつける勇気
- ・ 被災地の人々と向き合うまなざし
- ・ 全国の仲間とつながる絆

そんな想いが込められています。

いま、被災地では“日常を取り戻す”ための支援が求められています。

そしてそれは、まさに医療ソーシャルワーカーの専門性がもっとも生かされる領域です。

「いつか行けたら」——そう思っていたあなた。

この“青”をまとして、支援の現場に立ってみませんか？

仲間が、待っています。

— “青” に込めた想い。あなたも仲間になりませんか？ —



編集後記

事務局員 井川亜里沙

珠洲市の災害支援では、事務局として派遣決定のご連絡や会議への参加など、後方からのサポートを担当しておりました。全国の医療ソーシャルワーカーの皆様にご協力いただき、おかげさまで無事に活動を終えることができました。本当にありがとうございました。

事務局では、皆様から届く活動日誌や「珠洲だより」を読むことで、現地の空気を少しずつ感じていました。また、ありがたいことに事務方の私にも現地へ伺う機会をいただき、短い時間ではありましたが、とても貴重な経験となりました。珠洲市ささえ愛センターの皆様をはじめ、珠洲市の皆様には温かく迎えていただき、言葉や表情から、この地域を大切に思う気持ちが強く伝わってきました。

今後は、石川県医療ソーシャルワーカー協会の皆様がこのつながりを引き継いでいかれるとのことで、陰ながら応援しております。珠洲の皆様の日常が少しずつ落ち着きを取り戻し、穏やかな時間が戻っていくことを心より願っています。

2026年3月26日

公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会